

ことば



令和6年11月
舞鶴市立余内小学校
通級指導教室 75-0379

ことばの重み

ある学年のコミュニケーションの学習で、どんなことばを言われたら嬉しいか、どんなことばだと悲しく嫌な気持ちになるかを「ふわふわことば（嬉しいことば）」と「ちくちくことば（悲しいことば）」に分けて考えました。はじめにいくつか例示したことばをふわふわことばとちくちくことばに分けてから、実際に自分が言われたことのある「ふわふわことば」や「ちくちくことば」を出し合いました。「私はふわふわことばの方がたくさん書けた。」「どっちもあまりないなあ。」という子もいれば、一方で「僕はちくちくことばの方が多い。」という子もいました。

子どもたちから出たふわふわことばには、「いいよ」「よかったね」「すごいね」「うまいね」「教えて」「ごめんね」「楽しいね」「ありがとう」「がんばったからいいやん」「いっしょにする?」「いっしょにゲームしよ」等がありました。実際に文字にしてみんなで確認することで、ふわふわことばは、実際に言われると嬉しく、優しい気持ちになることが分かり、普段の生活の中で言われて嬉しいことばは相手に伝えられるといいことが分かりました。

今や子どもたちが当たり前のように口ずさむ、youtube等で流れてくることばの中にも相手を傷つけるようなものが含まれていることもあります。一つ一つのことばに立ち止まって、よいことばと悪いことばの区別が付けられるよう、大人も子どもと一緒に人権感覚を研ぎ澄ませながら使っていきたいものですね。また、あることばで嫌な気持ちになった時に、「私（僕）は～してほしかった。」と自分の気持ちを「I（アイ）メッセージ」で伝えることも、相手との良好な関係を保てる一つのポイントかもしれませんね。



11月の行事予定

- 6日（水） ことばの相談日
- 18日（月） 舞鶴市教育相談
- 26日（火） 研究会のため指導は
ありません。
- 27日（水） 舞鶴市教育相談
- 28日（木） 舞鶴市教育相談

ひとつのことばを大切に	やさしいことばは	きれいなことばは	ひとつの心を 持っている	ひとつのことばは それぞれに	ひとつのことばで 泣かされる	ひとつのことばで 楽しく笑い	ひとつのことばで 心が痛む	ひとつのことばで 頭が下がり	ひとつのことばで なかなかおり	ひとつのことばで けんかして	ひとつのことば 北原 白秋
-------------	----------	----------	-----------------	-------------------	-------------------	-------------------	------------------	-------------------	--------------------	-------------------	------------------



ひとつひとつのことばの重みを感じながら、
子どもたちが元気になることばを
使っていきたいですね。

子どものやる気を育てるには

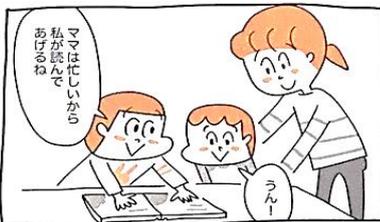


「子どものやる気を育てたい。ただ、どうすればいいんだろう・・・」と思う時はありませんか？

「ほめて伸ばす」はよく聞くかと思いますが、そこに、「認めること」を少し加えると、より子どもに伝わり自己肯定感を育て、自らのやる気を伸ばしていきます。

今回はさらに「認めることで、子どもがもっとがんばれる言葉」についてご紹介します。

子どもの“やる気を持続させる”
「親子の会話」とは？



子どもに「読んで」と言われた絵本を、お母さんが一言目に「うん！」と笑顔で言ったことで、みんながいい気持ちになりました。続けて「面白いよね」と受け止めました。まずは認める言葉が大事です。



子どもはいつだって大人の会話を聞いている



実は、直接言われた言葉が嬉しいのはもちろんですが、親が会話しているのを間接的に聞く方が影響は大きいのです。間接的に聞く言葉は真実味を帯びるからです。

ここぞ！
という嬉しいことや続けてほしいことはぜひ子どもが聞いていなさそうで聞いているところで話題にして、喜びをあげましょう。

子どもの気持ち

- ・お母さんが笑顔で「うん」と言ってくれた。
- ↓
- ・お母さんは忙しいから私が読んであげよう。
- ↓
- ・寝められちゃった。嬉しい。
- ↓
- ・また、お手伝いしてみたいな。

自己肯定感が高まりやる気につながる

